

トラス事業拡大で大幅増収 費用増加し減益に

トラス(本社東京、藤澤信義社長)の平成二十六年三学期第一四半期決算(連結)は、営業収

益百四十五億四千五百万円(前年同期比四七・四%増)、営業利益二十二億二千五百万円(同四・九%減)、経常利益二億六千二百万円(同四一・六%減)、当期純利益二十億五百万円(同四九・八%減)だった。

営業貸付金及び割賦立替金の回収がやや低調に推移し、貸付金利息が五・五億円、その他金融収益が九・九億円、割賦立替手数料が七・五億円とそれぞれ減少したが、アドアース、ブレイクの連結子会社化によりアミューズメント事業売上高四十二・二億円、完成工事高四・九億円を計上した

こと、韓国の親愛貯蓄銀行の営業開始により銀行業における営業収益を二十四・三億円計上したことにより、営業収益は増加した。

一方、営業費用は二六・二%増加した。アミューズメント事業売上原価や完成工事原価、銀行業における営業費用を計上したことによる。また、事業規模の拡大に伴い人件費が七・五億円、その他経費が八・七億円増加したことに加え、親愛貯蓄銀行で貸倒引当金を積み上げたことで貸倒関係費が四・四億円増加し販管費が五〇・二%増加したこと等により営業

利益は減益となった。経常利益は、受取配当金が一・三億円、韓国投資に伴う為替差損益が純額で二・五億円の差益とそれぞれ増加したが、営業利益の減少に加えライツ・オフアリングに係る株式交付費の計上により減少した。

金融事業における主な商品別残高は、営業貸付金百六十八億六千万円、割賦立替金四百五十五億四千四百万円、銀行業における貸出金

業における貸出金五百九十九億六千九百万円、債務保証残高三百三十九億八千三百万円。割賦立替金は、リスク軽減を目的とする残高構成の入れ替え方針によりキャッシング残高が減少しており、ショッピング残高はほぼ残高維持で推移している。

銀行業における貸出金は、親愛貯蓄銀行が未来貯蓄銀行から引き継いだ一部資産や、ソロモン貯

蓄銀行、HK貯蓄銀行からの譲渡を受けて増加している。

通期業績予想は、営業収益七百二十六億二千万円、営業利益百六十一億三百万円、経常利益百七十三億一千九百万円、当期純利益百五十億三千万円。

KC・日本保証が提携商品

トラスグループの日本保証は八月二十二日から、同グループのKCカードと提携保証商品「KC VIP LOAN CARD」の取扱を開始した。

提供するローンを日本保証が保証する。来店不要の契約締結、入会時の最短営業日振込みに対応し、資金ニーズにスピーディに対応。実質年率四・六%〜一八・〇%で最大三百万円まで融資可能とし、コンビニやゆうちょ銀行でキャッシングできる。